

英語の不変化詞の諸相：Under と Below の比較¹

水 本 孝 二

1. はじめに

本論考では垂直方向の（vertical）空間的位置関係を表す不変化詞である under と below について論じる。両者はいずれも、ある存在物（認知言語学で言うところの Trajector²，以下 TR）が別の存在物（Landmark³，以下 LM）の空間的下部に存在することを意味している類義語である。しかし両者は同じような意味を表しながら微妙な点で異なっている。本論考ではその点を検討する。これらの不変化詞は今までも複数の研究者によって論じられてきた。Quirk et al. (1985), Tyler & Evans (2003), Lindstromberg (2010) などである。本論考はそれらの先行研究を踏まえつつも今まで論じられていない新たな一点を付け加えようとする試みである。

2. under と below

Under は over の反意語であり，below は above の反意語である。したがって，意味の点で over に当てはまることは under にも当てはまり，above に当てはまることは below にもあてはまることが多い。また，over-above の意味の相違は under-below の意味の相違に重なることとなる。

2.1. under と below の空間的意味の違いについて

Under と below はふたつのものの垂直方向の空間的位置関係を示す不変化詞である。あるもの (TR) が別のあるもの (LM) の下方に位置していることを示す点では同義と言える。しかしながら, under は TR と LM との隔たりが小さいことを示し (それが極端に推し進められれば, TR と LM は「接触」することもある), 本論考ではそれを「近義」と呼ぶこととする。一方, below は両者の隔たりが大きいことを示す。本論考ではそれを「遠義」と呼ぶこととする。Quirk et al. (1985: 678) では次の図 1 を示し以下のように述べている (下線は本論考の著者による⁴⁾)。

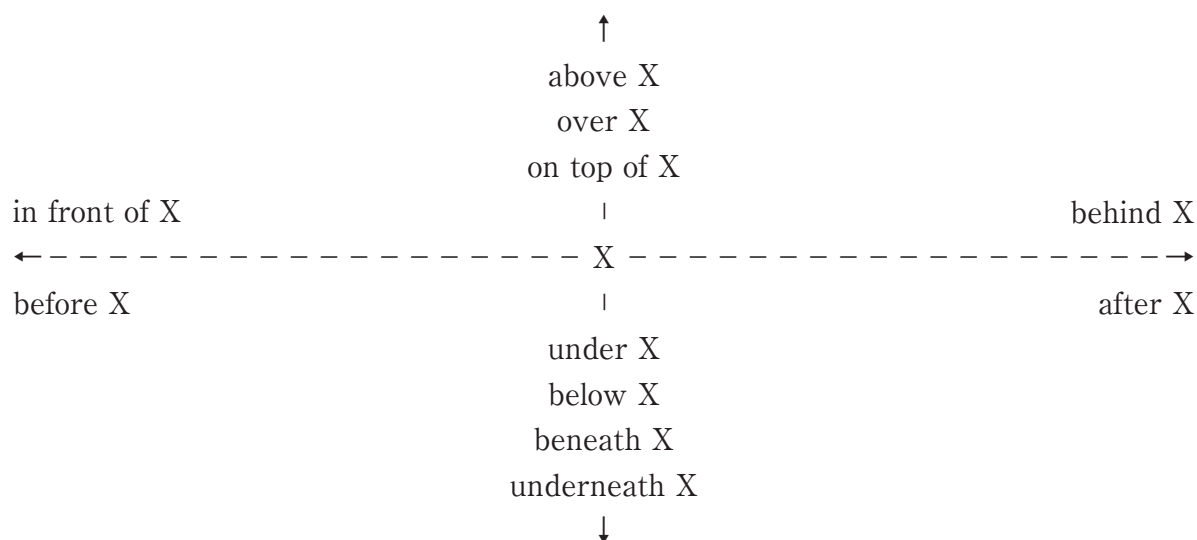


図 1 Vertical and horizontal direction (Quirk et al. 1985:678)

- (1) *Over* and *under* as place prepositions are roughly synonymous with *above* and *below*, respectively. The main differences are that *over* and *under* tend to indicate a direct vertical relationship or spatial proximity, while *above* and *below* may indicate simply ‘on a higher/lower level than’.

図 1 から明らかなように underの方が belowよりも Xに近い位置に描かれていることにより, underが近義を, belowが遠義を表すことが分かる。また Tyler & Evans (2003: 121) は更に精密な議論をして, 以下のように論じている。

- (2) The proto-scene for *under* denotes a conceptual spatial-functional relation between a TR and a LM, in which the TR is lower than and yet proximal to the LM. (⋯) the proto-scene associated with *below* denotes a relation in that the TR is lower than and distal with respect to the LM, and hence the possibility of contact between the TR-LM is (largely) precluded.

ここでもやはり *under* が「近義」を，*below* が「遠義」を表すことが述べられている。これを図示すると以下ようになる。

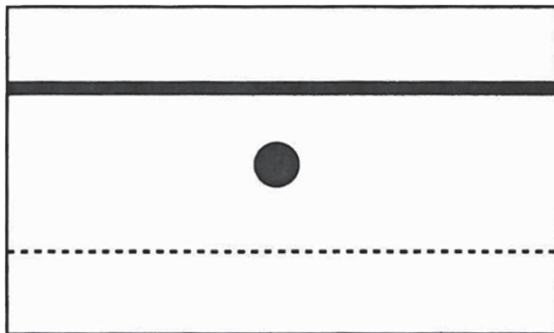


図 2(a) Proto-scene for *under*

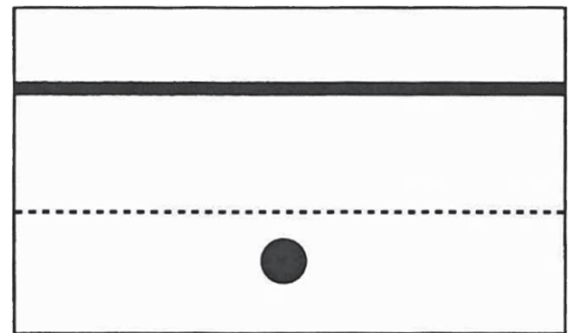


図 2(b) Proto-scene for *below*

図 2 Proto-scenes for *under* and *below* Tyler & Evans (2003: 122)

ここでは太線は LM を，黒丸が TR を，そして点線は LM と TR の接触可能性 (possibility of contact) を表している。図 2(a)において，近義を表す *under* では黒丸は太線の近の位置に描かれ，また点線の上側に存在する。これは *under* では TR が LM の近の位置に存在し，場合によっては TR と LM が接触することを示す。一方図 2(b)において *below* では黒丸は太線の遠の位置に描かれ，点線の下側に存在する。これは *below* では TR が LM の遠の位置に存在し，したがって TR と LM が接触する可能性がないことを示している。

また Lindstromberg (2010: 157) は以下の図3で *under* の近義と *below* の遠義を説明している。

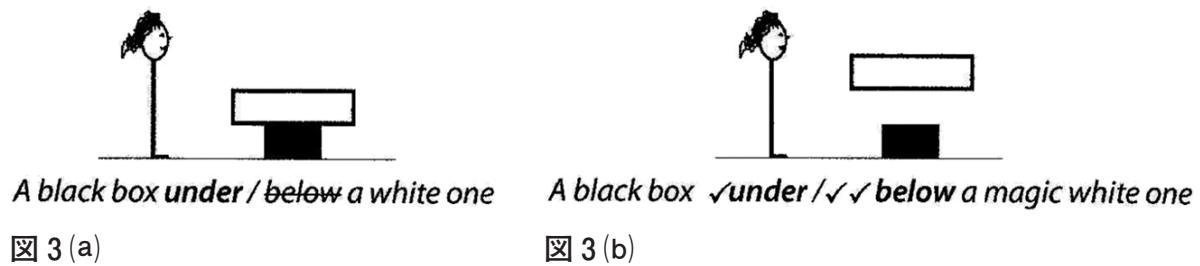


図 3 Lindstromberg (2010: 157)

図 3(a)において黒い箱 (TR) が接触して白い箱 (LM) の下にある場合は *below* は使えない (横線は不適切な用法であること, チェックの数は適切さがより高いことを表す)。これは *under* では TR が LM に対して接触を含めた「近」の下方に位置することを意味し, 一方で *below* は接触を含まない「遠」の下方に位置することを意味している。一方, 図 3(b)では *under* も *below* 両方使えるが, *below* の方がよりふさわしいことを示している。これは TR と LM が離れているので両者は「遠」の位置にある。TR が LM の下方に位置しているという点では, *under* も可能であるが, 遠義を持つ *below* の方がよりふさわしいということを示している。

2.2. 「真下」義の *under* と「非真下」義の *below*

2.1. において *under* が近義を, *below* が遠義を持つことを検討した。確かに *under* においても *below* においても TR は LM の下方に存在するのであるが, 下は下でもどの位置にあるかということについても *under* と *below* には違いがある, ということを検討していく。

先の引用(1)において Quirk et al. (1985: 678) には次の記述があった。“*over* and *under* tend to indicate a direct vertical relationship” すなわち *under* の場合 TR は LM の「真下」にある, ということを示している。一方 *below* に関しては, “simply ‘on a higher/lower level than’” と述べており, TR と LM との位置関係に関しては TR は LM の下, ということ以外特定されない, ということである。しかし Lindstromberg (2010: 157) は *below* の表す TR と LM の位置関係に関して一歩踏み込んで次のように記述している。

- (3) Another important difference between UNDER and BELOW (….) is that the Subject⁵ of UNDER is more or less straight down from the LM. BELOW, on the other hand, may refer to arrangements in which the Subject is not just lower than the LM but also well off to one side.

すなわち、under においては TR は LM の真下に位置していることを示し、below においては、TR の位置は LM の真下とは限らず、むしろ LM とは離れた位置にあるかもしれないことを示していると述べている。Below が「非真下」を表すことは Lindstromberg (2010: 157) の次の例文が示している。

- (4) Twenty-five miles *below* / *under* / *underneath* / *beneath* Cologne is Düsseldorf, also on the Rhine.

(4)はデュッセルドルフがライン川に沿って、ケルンの25マイル川下に位置することを示しているが、もしこの文で under を用いたならその真下義により、デュッセルドルフはケルンの真下に位置すること、すなわち、ケルンはデュッセルドルフの上空に浮遊して存在するという、あり得ない状況を記述することになる（ので(4)では below 以外の under その他は不適格と判断されている）。

しかしこのことは under の「近義」と below の「遠義」から必然的に導き出されうるものである。A child (TR) under the bridge (LM) という場合、under の近義により、子供と橋とは至近距離に位置している。子供は当然橋の下に位置していることが予測される。もし子供が橋から外れた位置、すなわち真下でない位置に立っていれば、我々は a child *under* the bridge とは言わないであろう。⁶一方 a child below the bridge の場合には below の「遠義」により、子供が橋の真下にいるかどうかは問題ではないし、「遠義」ゆえに子供が橋の「真下」にいるかどうかは確認しがたい。ただ両者（橋と子供）の上下関係のみが認識されるのである。

3. under と below の比喩的拡張

これらふたつの不変化詞は TR と LM の上下関係を示すことを第一義とするが、そこから比喩的な意味が派生する。以下、両者の比喩的拡張を見ていく。

3.1. Under の比喩的拡張

本節では under の空間的意味から比喩的拡張により生じた意味を論ずる。以下「支配」義, 「非可視」義, そして「より少ない」義を見ていく。

3.1.1. 「支配」義

TR under LM (TR と LM は人を表す) と言った場合, TR は LM の支配または監督下にあることを表す。これは日本語でも, 「AはBの支配下にある。」とか, 「AはBの下に就く。」などと, 「下」という言葉を使うので, 容易に理解できる。この点に関わって, 小西 (1976: 269) に興味深い指摘がある (本文を一部改変した)。

(5) He is below / under me.

below では単に職業上の地位が下であること, … under では「支配下・監督下」にあることを示し, 「彼」が, 「私」の部下であることが含意される。

(5)における below と under の意味の差は, below の場合はその遠義により, He is below me. と言った場合, TR と LM の隔たりが大きく, 両者の間に何らかの影響関係を見出しにくく, 単に両者の位置関係 (上司と部下, とりわけ職位が隔たった関係, たとえば社長と平社員) のみ表していることによる。一方 under の近義と真下義によって He is under me. の場合は, TR と LM との隔たりが少なく, また TR は LM の真下に位置していることから, TR と LM は直属の部下とその上司といった直接的な影響関係が生じていると考えられる。

3.1.2.「非可視化」義

非可視化とは文字通り、見えなくすることであるが、これは *under* の真下義により、TR が LM によって、TR の全体が覆われている結果として、TR が非可視化されることである。以下の例を考察する。

- (6) I always wear my tank top *under* my uniform.

Lindstromberg (2010: 158)

- (7) We managed to get an uncensored video *under* the counter.

英辞郎 on the WEB (access date: December 31st, 2023)

- (8) Her parents found out about her failing grades, even though she tried to sweep them *under* the rug.

Tervan (1996: 219)

これらの例において、my tank top, an uncensored video, them (= her failing grades) は非可視化されている。これは *under* の真下義によって、TR (= my tank top, an uncensored video, her failing grades) が LM (= my uniform, the counter, the rug) によって覆われることにより、TR が非可視化されたものである。(6)において制服の下にタンクトップを着れば、タンクトップは当然見えない。(7)において“under the counter”は、「こっそりと、秘密裏に」という意味を表す熟語である。(8)において“sweep under the rug”は「隠す、秘匿する」という意味を表す熟語である。

3.1.3.「より少ない」義

我々は時間の経過を過去→現在→未来というように horizontal に変化するものと見る傾向がある（英語教師が「現在完了形」などを説明する時に、黒板に横線を書き、左から過去、現在、未来と記し、過去と現在をくくって、現在完了形とはこの間に起きた「完了」「経験」「継続」などを意味するのだ、といった説明をする際などが顕著な例である）。しかしその一方で学校では学年を「低学年」と「高学年」で

区別したり，老人を「高齢者」と言ったりする。また動物でも植物でも成長とは身長が低いところから始まり時間の経過とともに高くなることである。したがって時間の経過は vertical な変化ととらえることもできる。砂時計や水時計は砂や水の落下（上から下への vertical な移動）により，時間の経過を表す。また成長を意味する old，高度を意味する altitude，高木（こうぼく）の oak は語源を同じくし，印欧祖語の語根 “al-” にさかのぼり，意味は「育てる，養う」である（織田（2011: 68-70））。このように考えれば，低位にあるものが「少」と結びつき，高位にあるものが「多」と結びつくことは容易に理解できる。時間の経過とともに，高さが増幅したり，量が増大するからである。以下，under と「少」の例を検討する。

(9) a: Sorry, you can't drink here if you're under 21.

Tyler & Evans (2003: 124)

b: It's impossible to run the marathon in under one hour.

Tyler & Evans (2003: 124)

Under は本来，垂直方向（vertical）の空間的位置関係を示す語である。しかし，(9a) における，“you” と “21”，(9b) における，“marathon” と “one hour” の間に空間的上下関係が存在するとは我々は通常考えない。では何故 under を用いることが出来るのであろうか。

ここで，水を満たした容器を想定してみる。どんどん飲んで行けば，容器の中の水の量は減っていく。この時，水面は水の減少に応じて下降していくことになる。そして我々はこの垂直方向の下降と減少とを結びつけて，下降すなわち減少と見るのである。これは Lakoff & Johnson (1980: 15-6) が主張する “MORE IS UP; LESS IS DOWN” メタファーである。増加は上昇と結びつき逆に減少は下降と結びつく。年齢や時間も容器の中の水と同様に水の量が多ければ（すなわち水位が高い），高齢や長時間と結びつき，少なければ（すなわち水位は低い），年少や短時間と結びつくのである。従って under 21が「21歳未満」

を，under one hour が「1 時間以内」を意味するのである。このようにして，under の持つ垂直方向（vertical）の空間的位置関係と年齢や時間が結びつくのである。

3.2. Below の比喩的拡張

3.2.1. 「より劣る」義

空間的に低位にあり，また3. 1. 3. で見たように，低位にあることが，減少や量の少ないことを意味する時，below が「より劣る」ことと結びつくことは十分に妥当なことである。Lakoff & Johnson (1980: 16) でも “Good is up”, “Bad is down” として，高位にあることがよいことと結びつき，低位にあることが悪いことと結びつくとして，次の例文を挙げている。

- (10) Things are looking up. / We hit a peak last year but it's been downhill ever since. / Things are at an all-time low. / He does high-quality work.

ここにおいて，“up, peak, high” など高位を表す言葉がよいことと結びつき，“downhill, low” など低位を表す言葉が悪いことと結びついている。

- (11) Her reading comprehension is below average to that of other twelve-year-olds.

Tyler & Evans (2003: 129)

(11)において，彼女の読解力が平均より「下だ」という時，それは彼女の読解力が「劣っている」ことを意味するのである。

3.2.2. 「非可視化」義

Below にも「見えない」義がある。

(12) Actually he was below my radar until I went to our class reunion.

Lindstromberg (2010: 164)

“below my radar”は「私の探知が届かないほど下に」ということで彼の行方、消息が分からなかった、すなわち彼が見えていなかったことを意味する。しかし、below の非可視化義は3. 1. 2「非可視化」義で扱った under の非可視化とは方法が異なっている。Under の「見えない」義はその真下義によって、LMがTRを覆うように存在することから、得られる比喩的拡張である。一方 below の「見えない」義は、その遠義により、目が届かないほど下に、ということから得られる比喩的拡張である。

4. ゲシュタルト心理学

ゲシュタルト心理学 (Gestalt はドイツ語で「形、形態」の意味) は20世紀初頭にドイツでヴェルトハイマー (Max Wertheimer) らによって主張された。それまでの心理学ではヴント (Wilhelm Wundt) が主張した構造主義心理学が主流であった。構造主義においては、たとえば、分子が原子、電子、原子核などの部分に分解でき、かつそのような部分の総体がすなわち分子であることと同様に、人間の心理も分子のように個々の要素を持っており、したがって心の働きは個々の要素に分解可能であり、かつそれらの総体として人間の心理は存在する、と主張した。

それに対してヴェルトハイマーは部分の足し算は決して全体にはならず、全体は必ず部分の総体より大きいものだとして主張し、ヴントの「要素主義」を批判した。たとえば、我々がリンゴの絵を見る時、我々はそれをリンゴと認識できる。もし、完全かつ厳密に要素主義に従えば、そこには線、点、色があるだけで、リンゴを認識できないはずである。しかし実際には我々がリンゴをリンゴ

として認識するのは、我々はその絵に「線＋点＋色」の足し算以上の、全体としてのリングを認識するからである。

以上ゲシュタルト心理学の概要をみたが、ここでは、本論との関連で、ヴェルトハイマーの「プレグナンツの法則（das Gesetz der Prägnanz）」を検討する（Prägnanz とは「簡潔さ」の意味である）。プレグナンツの法則は複数あるが、その内の「近接の要因」を鹿取，他（2020: 125）により見てみよう。

近接の要因（3組の近い2本の線どうしがまとまる）⁷

1 2	3 4	5 6

我々は近接した2本の線がグループを形成すると認識する（1と2，3と4，5と6）。一方離れた線同士をグループとは認識しない（2と3，4と5）。

この近接の要因を言語的に応用すれば、近接し合った語あるいは近義を持つ語というのは影響関係を形成しやすく比喩的拡張が多い、ということである⁸。再度、(7)を見てみよう。

(13)=(7) He is below / under me.

Below を使った場合、その遠義により、he と me との関係が離れており、影響関係が形成されにくく、単に上下関係（たとえば、平社員と社長）を表しているのに対して、under を使った場合、その近義により he と me との距離は近く、それ故、プレグナンツの法則の内の、近接の要因が働き、he と me との間に影響関係が発生し、単なる上下関係ではなく部下と（おそらくは直属の）上司の関係を含意するのである。

5. 結論

以上 under と below の基本的意味の違いとそれに起因する比喩的拡張の違いを見て来た。Under の比喩的拡張には「支配，非可視化，より少ない」義

があり、一方 below には「より劣る、非可視化」義があった。TR₁ under LM₁と TR₂ below LM₂ とふたつのフレーズがあった場合、前者では under の近義により、プレグナンツの法則の内の「近接の要因」が働いて TR₁ と LM₁ の間に何らかの影響関係が生まれるのである。“[TR He] is [LM under me].” では me による he の支配ないしは監督している、という影響関係がある。“sweep [TR her failing grades] [LM under the rug]” では TR が LM によって真上から覆われるように存在することから、TR が LM によって見えなくされている、と言う影響関係が生じて、「秘匿、隠す」の意味となる。“[TR you] are [LM under 21]” では近接の要因により、you = under 21 (21歳未満(アメリカでは飲酒出来ない年齢)) であることが示されている。これらの例が示していることは under においては T R と L M は肯定的な関係にあることが分かる。“He is under me.” のような「支配」義においては、TR に対して LM が影響力を持っていることを示し、“sweep her failing grades under the rug” のような「非可視」義においては LM が TR を完全に覆っている結果としての「非可視」であり、“You are under 21.” のような「より少ない」義では、当該の人物が21歳より上ではなく下にいる、ことによって「より少ない」義が生まれているのである。

一方、後者の TR₂ below LM₂ の場合、below の遠義により、「近接の要因」が働かず、TR₂ と LM₂ の間に影響関係が生じない。したがって、below においては TR と LM は否定的な関係にあることになる。“[TR he] was [LM below my radar]” では「私のレーダーでは検知出来ない」ことを意味し、“[TR Her reading comprehension] is [LM below average]” では「読解力が平均に届かない」ことを意味する。最後にもうひとつ例をあげる。

(14) I take you under arrest.

(15) I heard your nephew Jim, a chartered accountant, married a certain Sharon Jones, who was a fishmonger's daughter. Why did he marry *below* his station?

(14)は英語圏で刑事が犯人を逮捕する時に発する決まり文句であるが、これは犯人が逮捕という環境下に存在する、という肯定的な内容を表している。一方、(15)は身分違いの結婚を描写しているが、この場合シャロンという女性がジムの身分より低い、すなわちジムの身分ではない、という否定的な内容を表している。以上、本来空間的な不変化詞である under と below が比喩的拡張においてそれぞれ肯定的な内容や否定的な内容を表すことを見た。

註

- 1 本稿は2019年09月15日（日）に神戸市勤労会館（神戸市中央区）で開催された、六甲英語学研究会2019年09月例会において「不変化詞，below と under の比較」と題して行った口頭発表に加筆，修正を加えたものである。
- 2 「認知分布の用語。関係的プロファイルのうち，最も際立ちの高いものがトラジェクターである…典型的には文の主語に対応する」中野弘三，他，(2015: 339) 例えば，The knob is above the keyhole において，最も際立ちが与えられるのが主語なので，the knob がトラジェクターである。文の主語はその文のトピックであり，文はトピックに関する記述である「the knob とは何か，the knob はどこにあるか」など）ので，主語が最も高い際立ちを与えられやすい。
- 3 「関係的プロファイルのうち，最も際立ちの高いトラジェクターに次いで際立ちが高く，トラジェクターを位置づける機能をもつ」中野弘三，他，(2015: 327) 例えば，The knob is above the keyhole において，the knob を位置づけているのが，the keyhole であるので，the keyhole がランドマークである。
- 4 以下，引用内の下線は全て本論考の著者によるものである（註においても同様）。
- 5 Lindstromberg が用いている Subject という術語は本論考における Trajector に当たる。
- 6 Boers (1996: 44) に次の記述がある。“He was sitting under the chandelier.” の例文を挙げた後，“(…) the TR is confined to a bounded space directly beneath the LM (or at least close to it)”と述べている。またネイティブスピーカー（南アフリカ共和国出身，30代，男性）にたずねたところ，橋の真下にいれば“a child under the bridge”という。橋から外れたところにいれば，“a child *by* the bridge”，更に橋から離れれば，“a child *near* the bridge”という，とのことであった。また，橋自体ではないが橋と一体となったもの，たとえば橋脚のような構造物の下にいれば，“a child *under* the bridge”も可能とのことである。
- 7 ノンブルは本論考の著者が加えた。
- 8 近接に基づく比喩である metonymy（換喩）は，近接する2者が意味的に結びつきやすいことの証左である。地名がそこに存在する機関や施設を表すのはその典型で

ある。「霞が関」が日本の中央官庁を、アメリカの Washington D. C. の連邦議会議事堂が建つ、小高い丘である The Capitol Hill がアメリカの連邦議会を、イギリスの首相官邸があるロンドンのダウニング街10番地の Downing 10 が英国政府を表すなどはこの例である。その場所と機関が近接して存在するために metonymy が生じたのである。また固有名詞が普通名詞化する場合も同様のプロセスを経て metonymy (換喩) が生じたものである。John Montagu, 4th Earl of Sandwich から食べ物のサンドイッチが、アイルランドの英国人、土地差配人、Charles C. Boycott からボイコットが、フランスの財務大臣 Etienne de Silhouette からシルエットが生じたのも、人物と対象物との近接性に基づいて metonymy が生じていると考えられる。

参考文献

- Bennett, David C. *Spatial and Temporal Uses of English Prepositions: An Essay in Stratificational Semantics*. London: Longman. 1975.
- Boers, Frank. *Spatial Prepositions and Metaphor: A Cognitive Semantic Journey along the UP-Down the Front-Back Dimensions*. Tübingen: Gunter Narr Verlag Tübingen. 1996.
- Dixon, R. M. W. *English Prepositions: Their Meanings and Uses*. New York: Oxford University Press. 2021.
- Lakoff, George & Mark Johnson. *Metaphors we Live by*. Chicago: The University of Chicago Press. 1980.
- Lindstromberg, Seth. *Prepositions Explained Revised Edition*. Amsterdam: John Benjamins. 2010.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman. 1985.
- Terban, Marvin. *Scholastic Dictionary of Idioms*. New York: Scholastic Inc. 1996.
- Tyler, Andrea & Vyvyan Evans. *The Semantics of English Prepositions: Spatial senses, embodied meaning and cognition*. Cambridge: Cambridge University Press. 2003.
- 織田哲司 『英語の語源探訪：ことばと民族の歴史を訪ねて』 東京：大修館書店 . 2011.
- 鹿取廣人, 杉本敏夫, 鳥居修晃, 河内十郎 (編) 『心理学第5版補訂版』 東京：東京大学出版 . 2020.
- 小西友七 『英語の前置詞』 東京：大修館書店 . 1976.
- 中野弘三, 服部義弘, 小野隆啓, 西原哲雄 (監修) 『最新英語学・言語学用語辞典』 東京：開拓社 . 2015.
- 横田正夫 (監修) 『心理学大図鑑』 東京：Newton Press. 2021.